

平成25年度高大連携事業報告

1 札幌大学外国語学部との高大連携

(1) 「地域文化研究入門」(大学での講義受講)

- 生徒人数 3年国際文化フィールド 37名
- 10月24日(木)、10月31日(木)
- 11月7日(木)、14日(木)、21日(木)、28日(木)
- 12月5日(木)、12日(木)

【生徒の感想】

- ・とても内容の濃い講義でついていくのが大変だったが、得たものは大きかった。
- ・専門学校へ進学するので、大学について知ることができて良かった。各先生の工夫された講義を受けて、大学は楽しく、深く学べる場だと思った。
- ・高校の授業で習わないようなことを教えてもらい、とてもためになった。
- ・大学進学後に第2外国語を選択する際の参考になった。
- ・様々な国の言語や文化、政治などについてたくさん話を聞くことができておもしろかった。
- ・韓国やロシアの文化について知らないことを学ぶことができて良かった。
- ・社会についても色々と知ることができた。



- ・講義の内容は難しかったが、大学生と一緒に勉強するという貴重な体験ができた。
- ・この講義を受けるまでは英語という語学にしか興味を持っていなかったが、英語以外の言語やその国の生活や文化にとっても興味を持つようになった。
- ・講義が速く進むのでついていくのに必死だったが、大学の講義を体験できて良かった。
- ・今まで習ったことのない韓国語とロシア語を学び、さらに韓国の文化と歴史、ロシア発祥のキャラクターや文学者について知ることができた。
- ・韓国について少しだけ知ることができた。韓国語の歌も知ることができて良かった。また、チェブラーシカやマトリョーシカについて詳しくなった。
- ・大学の講義では黒板を使用することが少なかったり、席が自由だったりするなど、高校の授業との違いを実感し、良い経験となった。

2 北海学園大学との高大連携

(1) 北海学園大学「高大連携授業」プログラムへの参加（大学での講義受講）

○ 生徒人数 3年生受講申込み生徒 18名

8月6日(火) 第1講義 9:00～ 第2講義10:00～ 第3講義11:00～

8月7日(水) 第4講義10:00～ 第5講義11:00～

3 北海道医療大学との高大連携

(1) 大学での講義・実習の実施

○ 生徒人数 3年数理フィールド（看護） 7名

第1回6月17日(月)～18日(火) 看護福祉学部看護学科

第2回6月27日(木)～28日(金) 看護福祉学部臨床福祉学科

【生徒の感想】

[看護の講義・実習について]

- ・日本には100万人近くの看護師がいるが、それでも不足していることを知った。
- ・准看護師、認定看護師、専門看護師の違いがよく理解できた。
- ・看護師の心構えについて知ることができて良かった。
- ・大学の看護学科の先生の講義を受けるのは初めてだったので、とても興味深くためになった。
- ・援助の体験で高齢者は何ができて何ができないのかわからなかった。また、何でも手伝っては人のためにならないことがわかった。
- ・高齢者体験では誰かがそばにいてくれないと何もできないことが十分に理解できた。
- ・普段はあまり考えたことのないお年寄りのことが少しわかった。ささいなことでも苦勞し、不自由になることが改めて分かった。



- ・お年寄りの体験をしてみて、いつもの自分にできることが一人ではできないと分かった。お年寄りになると一人で外に出る機会が減ることを理解できた。近くに誰かいてくれるだけで安心するので、支えは必要だと感じた。
- ・看護する対象の人をよく観て、その人に合った看護をすることがとても大切だと感じた。老年看護に興味があるので、高齢者のことをもっと理解したいと思った。
- ・階段に手すりがないと高齢者の方が上り下りするのは難しいと実感した。
- ・白内障になると世界が黄色くなり、信号の色が分からないので、どの信号にも音声をつけるべきだと思った。
- ・麻痺や怪我によって何気ない動作ができなくなり、生活が大変になることがわかった。どうすれば動かしやすくなるかしっかり勉強したいと思った。

- ・高齢者になって視力が低下すると大事な書類が送られてきても見逃す可能性があり、社会から切り離されることになると感じた。

[福祉の講義・実習について]

- ・児童虐待しているのはほとんどが母親であると知って驚いた。
- ・最近の政治・経済状況も交えた講義で、とても勉強になった。
- ・生まれてから22歳になるまでに約3000万円もかかると知って驚いた。本当に親に感謝しなければいけないと思った。
- ・子育てには地域のつながりが重要であるが、現代社会では家庭が孤立し、児童虐待などの様々な問題が起きていることがわかった。
- ・誰の助けもなく、何も知らずに子育てするのは大変で、不安やストレスを抱えてしまう。地域で助け合うことができれば児童虐待も減ると思った。



- ・コツをつかむと体重のある人でも楽に移動させられることが分かった。
- ・力の使い方を工夫するだけで、介助する側もされる側もとても楽になることが分かった。この技術を家庭でも使うことができれば、老々介護の問題も少しは解決できると思った。子育ての支援と共に介護の支援も必要である。
- ・押すよりも引く方が腰に負担がかからないことや相手との距離を縮めてできるだけ小さくまとめると介助しやすいことなどを知った。こういうことを知った上で介助するのと知らないで介助するのでは体にかかる負担が全く違うと感じた。
- ・初めて移動介助を体験し、大変さを実感した。てこの原理や振り子の原理などを使って介助すると驚くほど簡単だった。介助される側も力任せに介助されると手や足に力を入れなくてはならないが、工夫した介助をされると本当に楽だった。将来、看護師になったら患者さんにも自分にも負担をかけない楽な介助をしたい。

(2) 大学での実習の実施

○ 生徒人数 3年数理フィールド（生物Ⅱ選択） 32名

7月22日(月)～7月23日(火) 個体差健康科学研究所にてDNA解析実験実習を実施。



4 北海道情報大学との高大連携

(1) 出張講義の実施

○ 生徒人数 3年「生活の科学」選択生徒13名

10月9日(水)、10月16日(水)、10月23日(水)、11月13日(水)、11月20日(水)

【生徒の感想】

- ・なぜそうなるのか自分で考えることの大切さを学べて良かった。
- ・回転について理解することができた。体験しながら学べて楽しかった。
- ・地球ゴマが安定している理由は分かったが、やっぱり不思議だと思う。
- ・自転車がなぜ倒れないか分かって驚いた。
- ・スケート選手のスピンの速くなったり遅くなったりするのがなぜか分かった。
- ・自分の予想が当たっているとうれしい。違っていてもなるほどと思えて楽しかった。
- ・水飲み鳥が熱を利用して動く仕組みを理解できて感動した。水飲み鳥がほしくなった。



- ・今まではギターの弦の振動の仕方を気にしたことはなかったが、よく観察すると一定の振幅で振動していておもしろい。

- ・ビルの高さによって大きく揺れる振動数が異なることが分かった。
- ・光の進み方についてよく理解できた。自転車の反射盤がなぜ光のやってきた方へ光をはね返すのか納得した。

5 北海道大学との高大連携

(1) 出張講義の実施

- 生徒人数 3年「物理Ⅱ」選択生徒27名
6月11日(火)、7月23日(火)、8月27日(火)



【生徒の感想】

- ・高校で学んでいる数学が身近なところにたくさん応用されていることが分かった。
- ・Wi i コントローラーが加速度センサーを利用しているとは思わなかった。
- ・人間の反射の限界が0.1秒だと知って驚いた。
- ・現在のコンピューターは光や電気が10cm進む間に1回の計算を終えるということに驚いた。これ以上早く計算することができないこともわかった。
- ・身近な現象のほとんどは微分積分で表すことができるということがわかった。
- ・地球の大きさがピンポン玉だとすると太陽の大きさが4mになると知って驚いた。
- ・普段は気にしていないことにも興味を持てるようになった。

6 千歳科学技術大学との高大連携について

- (1) eラーニングID取得講習会（1年生希望者25名対象）
6月20日(木)